

高山の宝をみんなで守り、磨き、育て、結びあおう ～ より大きな地域活力を生み出すための絆づくり ～

大田市立高山公民館

1 高山公民館の概要

この高山地域は、大田市の南西に位置し、世界遺産「石見銀山」を擁する、歴史、文化、自然に恵まれた地域である。現在、この地域全住民のおよそ3割が、農林業、製造業、自営業等に従事している。

高山地域4町（大森、水上、祖式、大代）の人口は約1,800人、世帯数は約800、高齢化率は43.6%である。本年度より大代小学校が高山小学校に統合し、小学校が2校、中学校が1校となった。将来的にも少子高齢化の傾向は続いていくことが予想され、そこから派生する様々な地域課題の解決にどう向き合っていくかが公民館・まちづくりセンターを始め地域住民に問われている。

2 事業の概要

(1) 事業のねらい

- ・ 地域の宝は、一人一人が地域づくりに参画しようとする意識を通して、守られ、磨かれ、育まれ、結ばれるものである。そこに地域の活力となる絆が生まれる。
- ・ 地域の宝の一つは子どもである。この高山地域の子どもにあっては、歴史、文化、自然、人に恵まれた地域というフィールドの中で、様々な世代や立場を超えた地域みんなの手による子育て・家庭教育が、より有益である。

(2) 具体的な取組

ア 高山地域の各種団体の聞き取り調査

- ・ 高山地域4町における64団体（H24.11月現在）の一覧表を各町のまちづくりセンターの協力を得て作成し、公民館便りで公開した。

《下記一覧表には、個人名は掲載せず団体名と団体数のみを掲載》

団体 \ 町	大森町	水上町	祖式町	大代町
公的な団体 (12)	3	3	3	3
	民生児童委員会、交通安全協議会、消防団			
任意団体 (27)	5	4	5	5
	自治協議会、社会福祉協議会、敬老会、婦人会、体育協会			
	8			
	保・幼・小・中学校PTA、小・中学校後援会			
まちづくり団体 (16)	4	4	2	5
	夏祭り・盆踊り実行委員会、郷土芸能・文化財保存会、観光開発協会、そば道場等			
	1			
	まちづくり委員会			

ボランティア団体 (8)	2	2	2	1
	福祉弁当配食ボランティアの団体、舞踊・マジックの団体、奉仕活動の団体等			
	1 交通安全推進団体			
子育て団体 (1)	1			
	子育てサークル			

- ・ 4～10月にかけて、各団体の代表（会長等）に、直接聞き取り調査を行った。
《 聞き取り調査項目は下記のとおりである 》

① 組織の概要	… 役員名、設立年度、所属人数について
② 活動内容	… 定例会、年間の活動内容について
③ 課題	… 予算・人・事業等における課題について
④ 今後の展望	… 計画・課題解決に向けての展望等について
⑤ その他	… 規約、年会費等について

- ・ 公民館運営委員会、まちづくり委員会、まちづくりセンター高山ブロック会議等で情報提供を行った。

イ 高山公民館調査（地域住民のニーズ調査）の実施

- ・ 島根大学生涯学習教育研究センター仲野 寛教授の指導を受けながら、高山地域住民を対象とした生活・福祉・学習に関するニーズ調査を作成・実施した。 《 下記は、調査用紙等から一部抜粋したものによる 》

高山地域のより良い未来を築くため、 皆さんの声を届けていただけませんか！ 「高山地域住民の地域活動・意識（思い、願い）調査」

1 調査の目的

高山地域のより良い未来を築いていくために、地域住民の思いや願い、取り組んできた地域活動の実態を把握し、そこから見えてくる課題解決のための手立てを今後の公民館事業に反映させることを目的とする。

2 調査項目

- (1) 回答者の構成（男女・年代層・職業）
- (2) 住民の地域への思いや願い、地域活動の状況について
- (3) 住民の学習活動の現状と公民館事業・講座への希望について

3 実施時期

- (1) 配付日：平成24年11月15日～11月下旬
- (2) 回収日：平成24年11月15日～12月7日

4 実施方法

配表調査（対象者に調査用紙を配付し、3週間後までに返信用封筒により回収する）

5 調査結果の活用

- (1) 「高山未来の会」の基礎資料として活用する
- (2) 今後の公民館事業の改善・充実に反映させる

- ・ 昨年 11 月中旬に全世帯(804 世帯)に調査用紙を配付し、12 月中旬に 316 世帯(回答率 39.3%)から回答を得た。
- ・ 本年 1 月に調査の集計と分析・考察を終え、「高山未来の会」(H24.12 設立)にて、報告を行った。またその際、島根大学の仲野先生にも参加してもらい、調査の分析・考察及び、今後、高山地域の進むべき方向性等の助言や指導をいただいた。

ウ まちづくり・人づくりへの啓発事業

- ・ 「高山未来の会」を 20 代～50 代の各町男女各 1 名と公民館長・主事の各 1 名の計 10 名の構成により設立した。
- ・ 本年 3 月に高山地域全住民を対象とした学習会、講演会を実施する。



《 高山未来の会 》

エ 子育て・家庭教育支援事業

- ・ 子育て、家庭教育支援事業は地域全体に関わる事業であり、過去 3 年間、公民館が特に力を入れて取り組んできた事業である。今後も継続して事業を実施していく予定である。

主催事業『 あーそーぼ！！ 』 ※ 幼稚園・保育園で年間を通して実施



《8.10 乳幼児～中学生・地域住民交流会》《11.29 水上保育園三中吹奏楽部交流会》《12.22 幼稚園と保育園の交流会》

- ・ 現在、高山地域には 1 保育所 2 幼稚園があり、そこを中心とした子育て・家庭教育支援のための公民館事業を行っている。また、その事業を通して、地域全体で活動する子育て団体とも相互に強い連携が生まれている。

『 家庭教育支援事業、小・中学校ふるさと教育・地域交流事業、読書活動推進事業 』



《6.1, 7.2 「親学」水上保育園保護者会》《9.20, 11.20 三中赤ちゃんふれあい体験》《11.7 高山小学校図書館へ行こう！》

- ・ この地域にある小・中学校のふるさと学習、地域交流学習も充実しており、まちづくりセンターを中心として、地域も学校に大変協力的な体制がある。
- ・ 学校・家庭・地域の連携の絆をさらに太くし、子育て世代の親や家族、地域住民を巻き込み、各種団体の協力を得る活動を今後もめざしていく。

3 事業の成果と課題

- (1) 高山地域で掌握している各種団体数は、66 団体(1 月現在)になる。これは、当初の予想を遥かに超える数であった。この各種団体による活動は、長年にわたり熱心に展開され今日に至っている。これらの公的な団体は勿論であるが、まちづくり・ボランティア団体等の多くの皆さんに、地域が支えられていることを改めて目の当たりにし、頭が下がる思いがした。

今回の調査を通して、これら各種団体が共通して抱える課題は、今後少子高齢化が進行する中で、次世代への継承がスムーズに行えるのか、今後も団体が維持していけるのかということである。この調査は、その現状を地域住民に伝え、各団体が対応策を講じる契機となることを願う目的も持つ。

- (2) 高山地域全世帯を対象に実施した公民館調査は、生活・福祉・環境・学習の多岐にわたる内容とした。当公民館は平成 21 年度に設立されたため、まだ地域住民には認知度が低く、まちづくりセンター（旧公民館）と混同した回答も多くあり、これが現時点での実情という受け止め方をしている。

調査の設問には、「今、困っていることや不安は?」「地域づくりのために必要な取組は?」「学んだことをどのように活かすか?」「公民館事業・活動への期待は?」等を掲げ、地域住民が抱える課題や地域の未来のために何を期待し、何ができるのかを明らかにする内容にした。また、「地域の自慢・誇りは?」という設問の集計結果は、4 町の特色が出るものであった。

この調査結果は、これからの公民館事業を展開する上で、根拠を持った高山地域の基礎データとして活用していく予定である。

- (3) 「高山未来の会」は、上記の調査結果等を教材にしながら、地域の未来を見据え、まず学習する会としてスタートした。必然的にそこから生まれる企画やアイデアも協議の対象になるが、「何かをするため」より「何かを生み出すため」の会をめざしている。会は、現在、男女半数ずつ 10 名で構成しているが、柔軟な形態での会の在り方を模索している。最終的には、地域の次世代リーダーの核づくりに繋がると考えている。

4 今後の方向性

この事業は 2 本の柱で展開してきた。一つは、「調査」である。地域の実態を正確に把握し、そこから見えてくる地域の課題や埋もれている宝を、根拠を持った形で明確にすること。二つ目は、「子育て・家庭教育支援事業」である。地域全体に広がり、次世代に繋がる学習や教育の展開である。今後もこの 2 点を基軸に、諸事業の実施や学習活動を展開していく予定である。